



さとのかぜ

No.170号

千葉県いすみ環境と文化のさと

2010年1月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

指定管理者 千葉県環境財団

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

あけましておめでとうございます



あけましておめでとうございます。

今年も「千葉県いすみ環境と文化のさと」をよろしくお願いいたします。2010年は、生物多様性条約の国際会議 COP10 が名古屋で開催される予定です。地球環境問題が大きな社会問題として取り上げられる昨今ですが、参考にできる日本の先人の知恵が里にもたくさんあります。身近なところから楽しみつつ学び、生活に活かしていったら良いのではないかと思います。

さて、上の写真ですけれど、この鉢植えに何が植えてあるかお分かりでしょうか。お正月の床の間などに置かれる切花や鉢植えによく見るものですが・・・

(ヒント)秋から冬に赤い実をたくさん付けてつややかな葉の緑色とともに美しい低木です。

答えは、次ページに。

夷隅の方言の紹介

方言は「お国言葉」とも言われ、日本全国津々浦々さまざまな方言が使われています。夷隅においても特有の方言がありますが、同じ夷隅でも海岸地域と山側地域といった小規模な場所の違いで、使う言葉が異なることがあります。若い人達はあまり使用しなくなっていますが、年配の方々の日常会話には、しばしば使用され温かいほのぼのとした懐かしさがあります。

家庭内では、おとしよりが孫との会話で方言を使うと会話が続き、「今なんと言ったの」と聞き直されることがあったり、都市に出れば「田舎ことば」、「訛っている」などと言われたりして、徐々に使われなくなりつつあると感じています。

★ここである寒い日の会話を方言で再現…

今日はサビィよ。サガリガンクリが下がっている。

でも、きれいなノノサマが出たよ。そろそろ鍋がネェールよ。これを食べたらノトマルよ。チッコの出もよくなるべ。



さて、いったいどんな話をしているのでしょうか。答えはセンターへ！と言いたいところですが、答えを発表します。

今日は寒いね。つららが下がっている。

でもきれいな月が出たよ。そろそろ鍋が煮えるよ。これを食べたら暖まるよ。乳の出もよくなるよ。



想像ついたのでしょうか。孫に方言でしゃべりかけると、孫の親に「覚えちゃうからやめて！」なんて、叱られてしまうこともあるそうです。

夷隅の方言は語尾に「～べ」や「～ぺ」が付くのが大きな特徴です。方言といっても、意味が想像できるものから、全く想像できないもの、標準語と音は同じでも違った意味を持ったものまで、たいへん多様です。以下は、夷隅で現在でも日常よく使用されている方言の一例です。

方言	標準語
アリンボ	アリ
アジット	どうした
イスブル	ゆらす
ウッチャル	捨てる
エンゴ	リンパ腺
オイネェー	いけない
オダス	叱る
キタイ	不思議
ギタギタ	ひどい目
コジャ	3時のおやつ
ソウメンコ	ウナギの子
ソッケ	そうか
ダッテモネェー	らちもない
チャッケェー	小さい
トッパズス	しくじる
ナジミ	痣（あざ）

◎方言取材を終えて一言……

こちらに来て最初に覚えた方言は「オイネェーなあー」と「ソッケ、ソッケ」です。よそから来ると、その土地の方言も大変興味深いものがあります。

まだまだ他にもたくさんあります。今後もし取り上げていこうと思います。お楽しみに。

[表紙の答] 左から、万両(マンリョウ)、千両(センリョウ)、百両(カラタチバナ)、十両(ヤブコウジ)です。センターに実物と解説があります。

～秋蒔き野菜その後～

10月1日播種のダイコン、カブ、菜花は、発芽後発生した根切り虫(カブラヤガ)によって大きな被害にあいました。その後の追い蒔きや移植によって、今は良好な状態にあり今後の適期収穫が期待できそうです。



10月29日に遅めの播種を行ったカラシナ、シュンギクは現在本葉5枚程度の状態にあり、このところの冷え込みにより、多少生育に影響があることかと思われませんが、今のところ順調なできです。

◎悩みの種…◎

センターの畑では木酢液以外に農薬を使わず栽培しているため、農作物を育てる上での害虫に悩まされています。農家やガーデニングに係る人にとっては、憎き相手の昆虫を紹介します。

××センター畑主力害虫××

- ・モンシロチョウの幼虫
- ・カブラハバチの幼虫
- ・カブラヤガの幼虫
- ・コガネムシの仲間の幼虫
- ・コオロギの仲間

時期により、バッタやイナゴの仲間が闊歩したり、カメムシが大発生したり、ネズミが出たりしますが、春から現在にかけて戦い続けているのは、上記のような昆虫の幼虫です。

また、一般的に“根切り虫(ねきりむし)”や

“夜盗虫(よとうむし)”と呼ばれる虫たちは、一つの種名ではなく総称です。

◆根切り虫(ねきりむし)

- ・地ぎわすれすれの茎を噛み切るヨウトウムシや、ヤガの仲間
- ・根を食べるコガネムシやハナムグリの仲間の幼虫

地域によって異なったりしますが、2タイプの幼虫が挙げられます。

◇夜盗虫(よとうむし)

日中は土の中や葉裏に潜み、夜になると葉を食害する。夜に活動することから、“夜盗む虫”という漢字が当てられています。

種類はヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウなどがいます。



(捕獲したカブラヤガの幼虫)

ここで紹介した虫に拘わらず、農作物についた虫は、職員が一匹ずつ捕まえて、魚の餌にしたり、そのまま肥料にしたりしております。取りきれなかった虫たちも残念ながらいるので、葉は穴だらけのものもあります。捕まえても捕まえても、野菜畑をのぞく度に、美味しそうに野菜を食べている虫たちを発見するのです。周囲を飛ぶ鳥たちにはもう少し頑張ってもらいたいと願う、職員一同です。

なお、菜の花エコプロジェクトでは、11月26日に菜の花の間引きを行いました。

地球環境問題のいろいろ -①水について-

今号から地球環境の様々な話題を紹介していきます。今回は「水」のお話です。

地球上に存在する水はいわゆる水循環と呼ばれるサイクルの中で液体・固体・気体の3つの形をとります。地球上での分布は表のような存在量になっているといわれています。

地球に存在する水の量

水の種類	量 (1,000km ³)	全水量に 対する割合(%)	全淡水量に 対する割合(%)
海水	1338000	96.6	
地下水	23400	1.7	
うち淡水分	(10530)	(0.76)	30.1
土壤中の水分	16.5	0.001	0.05
氷河等	24064	1.74	68.7
永久凍結層地 域の地下水	300	0.0022	0.86
湖水	176.4	0.013	
うち淡水分	(91)	(0.007)	0.26
沼地の水	11.5	0.0008	0.03
河川水	2.12	0.0002	0.006
生物中の水	1.12	0.0001	0.003
大気中の水	12.9	0.001	0.04
合計	1385985	100	
合計(淡水)	35029	2.53	100

出典 1

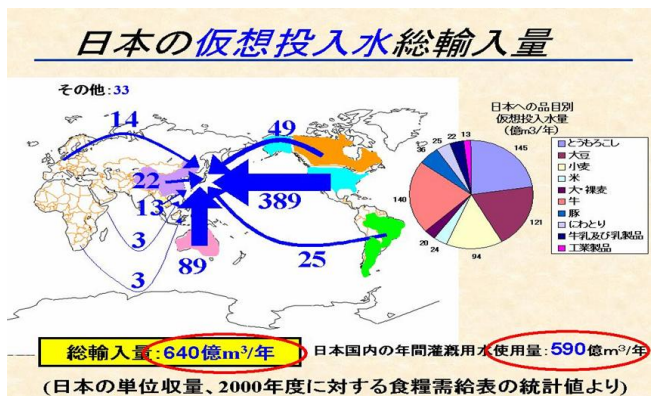
このうち私たちが使える水は 2.53%の淡水です。そのうち 1.74%は氷河が占めています。南極やグリーンランドの氷河ですから使えません。意外にも地球上で使用可能なところにある水の量は多くはないのです。そして、淡水のおよそ3割は地下水が占めています。

この水の絶対量は変わらないのですが、一人当たりが使える水量は、今後減っていくこととなります。それは世界の人口が2000年には60億人であったものが2050年には90億人を超えると予測されているためです。

では、日本ではどうなるのでしょうか。日本の人口は数年前にそのピークを迎え、このまま推移すると来世紀には4千万人台、30世紀には絶滅・なんていう予想も出ていますけれど。

日本の少子化問題はともかくとして、人は食べなければ生きてはいけません。日本の食料自給率が40%前後を行き来しているとマスコミが報道しています。多くの食料を輸入に頼っています。でも、ここでよく考えてみましょう。食料を生産するという事は多くの水を使うのです。土地も必要です。自給率が低いということは、水や土地も外国に頼って今の日本の食糧事情が成立していることになるのです。

どのくらいの水を外国に頼っているのでしょうか。データは少し古いのですが東京大学の沖大幹先生が「仮想水」という概念で計算しています。もとの数字は2000年をベースにしています。水に換算したやり取りを沖先生の図で示します。



出典 2

2000年時点における日本の農業用水の総量はおよそ年間590億m³でしたが、肉や大豆、トウモロコシや小麦などの農産物を日本で生産したら640億m³かかるという試算でした。

日本は水資源に比較的恵まれています。たまに旱魃で給水制限を受けますが、「のどもと過ぎれば・・・」で忘れがちです。しかし、食料と言う形に変えて、実は多量の水を輸入していることになるのです。

昨年末はCOP15が話題になりました。気候変動に伴う地球温暖化の話題がここ数年、色々な形で出てきます。気候変動は雨の降り方を地球規模で変化させてしまいます。今、日本に食料を輸出している国々は、土地も、水も、余裕があるからできることです。土地の面積は変わらないでしょうが、雨の降り方が変われば、それらの国が食糧輸入国へ変わるかも知れません。人口が増えて輸出へ回せなくなるかも知れません。そんな未来が・・・来ないことを願う年の初めです。

出典

- 1 Assessment of Water Resources and Water Availability in the World Prof. I.A.Shiklomanov,1996 (WMO 発行) による
- 2 総合地球環境学研究所の沖大幹先生が、東京大学生産技術研究所のグループと試算した結果

植物の冬越し

夏を過ぎ、秋の紅葉シーズンを終えると、落葉広葉樹は葉を落とし、まるで枯れ枝のようになってしまいます。そんな冬でも自然観察は楽しめます。

冬の自然観察は、樹木の葉が落ちた痕“葉痕”と、冬を越す芽“冬芽”を合わせた観察がおススメです。小枝についている冬芽は、木の種類によって異なるので、冬芽を見るだけで樹種が分かります。さらに冬芽は、想像を膨らませながら見ると大変面白いものです。

そんな冬限定の自然観察に出かける前に、少し冬芽のお勉強をしましょう！

＜休眠芽＞

生長を一時停止している状態の芽

日本では冬に休眠することが多いので「冬芽」と呼ばれる

＜形の違い＞

鱗芽（りんが）

鱗に包まれたような状態の芽
例) ソメイヨシノ(写真)、ツバキ



裸芽（らが）

鱗を持たない小さな葉のような芽がついている状態

例) ムラサキシキブ(写真)、アカメガシワ



＜内容の違い＞

花芽

花の芽だけが包まれている状態

葉芽

葉の芽だけが包まれている状態

混芽

花と葉の芽が包まれている状態

＜葉痕＞

葉の落ちた痕

円形やT字形など多様です。

例) オニグルミ(写真)



冬芽と葉痕の形が分かれば、冬芽検索表等を使って、樹種を知ることができます。

ではここで、センター内で見られる冬芽を紹介します。冬芽観察の醍醐味、冬芽連想ゲームです。よ〜く見ると、なんだか別の顔に見えてきます。



オニグルミ



ハゼノキ



ネムノキ

どんな顔に見えましたか？人によって浮かぶイメージは違うと思います。その違いが楽しめますね。野山で冬芽達と目が合うと、ほんわか温かい気持ちになれます。

冬、眠らずに活動する動物にとって、冬芽と樹皮は重要な食料です。例えば、センター周辺にも生息しているニホンリスは、サクラの冬芽が好物です。食べた後には、先を刃物で切ったような枝を地面に落とします。このようなアニマル・トラック（動物の痕跡）も、冬芽観察と一緒に発見できるかもしれません。

冬ごもりが必要の無いヒトは、野山にでかけ、発見の旅・自然観察を楽しんでみませんか？

～センター周辺のおすすめポイント案内(1)～

周辺のおおすすめポイントを紹介します。

センターにおこしの際に、一緒にお立ち寄りください。

・お勧め展望拠点①—万木の丘

頂上には、360度の景観が望める展望台があります。ここは、千葉県いすみ環境と文化のさとのスポット地区1番目になっています。西は房総丘陵の連なりや、いすみに広がるさとの風景(田んぼ・里山)が望め、東は夷隅川河口、太東崎灯台、太平洋まで見渡せます。日本の原風景を感じられる場所です。四季折々のさとの風景を楽しめます。

ここは戦国時代の天正末まで北条方土岐氏の山城である万木城があった場所で、城址公園となっています。使い放題・無料の固定式双眼鏡が二台設置してあります。また、双眼鏡お持ちの方は、持参してゆっくりじっくり展望を堪能してください。地図を一緒に持って眺めると、さらに面白い発見があると思います。最近、深緑色に樹木がつながる曲線は、実は夷隅川の蛇行する線に沿っているのだ!!と、今更ながら発見したところです。

春……万木城の桜、里山の新緑、水を張った田んぼ、田植え直後の田んぼなど。五月の連休には、万木城祭りが開催されます。

夏……涼しい風に吹かれながら、遙か青い海を望めます。

秋……稲刈りが始まると、毎日、みるみる黄金色のじゅうたん模様が茶色にと変化していきます。

冬……空気が澄んだ日には、東京湾を超えて遙か富士の山を望むことができます。



・お勧め展望拠点②—太東崎灯台

国道128号に沿って、太東漁港から南へ1.5km、夷隅川に架かる江東橋からは北へ1.5km、歩道橋のある信号を海側に入ると1km程で、坂道を上り詰めると太東崎の灯台にたどりつけます。標高68.8m、丘の上の展望台から、太平洋を一望に収めることができます。夷隅川河口、ラグーン干潟、岬町の農地や街の景色も望めます。丘のふもとには、国指定天然記念物第1号の太東海浜植物群落地もあります。土曜、日曜は、地元の有志の方々が、直売所を開いています。

春……釣り船や漁船が見えます。沖には大型船も。連休には灯台まつりが開かれます。

夏……たくさんの観光客が外房に訪れます。オオミズナギドリがたくさん海に飛んでいます。スナメリも見つかるかも。

秋……実りの秋。丘の麓では、コメ、梨、野菜の収穫時期です。

冬……12月からスイセンがたくさん咲き始め、春を予告してくれます。



海を見ていると、水の模様がかわるところがあります。

潮目です。

暖流の黒潮が太東の沖を流れています。目の前に広がる海の中の海底地形は「いすみ根」という水深17m程で細かな起伏がつながる地形で、とても多くの生物が暮らす豊かな海です。太東はタコ、大原はイセエビで有名です。

次回も他の場所を紹介します。

火伏せの話

火災の発生状況

寒い季節になり、なにかと火の使用が増える時期です。千葉県消防地震防災課のホームページによれば、平成20年の千葉県における

季節別火災発生状況は、年間2,398件のうち、12月が231件、1月が248件、2月が256件、3月が310件と、火気を使用する冬から春にかけての火災が多くなっています。

火伏せ(ひぶせ)のお祈り

昔は、現在のような消防署もなかったので、神仏に火事が起こらないように祈願したようですが、夷隅には火伏せの祈禱をする風習があります。いすみ市で火伏せとして有名なお寺に、飯縄寺と安養寺があります。

① 飯縄寺 (いすみ市岬町 2935)

国道 128 号の太東崎灯台入口交差点を海側に向かって入り、道なりに右に進むと、左側に、「波の伊八」の彫刻や、「天狗のお寺」で有名な「飯縄寺 (いづなでら)」という天台宗のお寺があります。本堂は県の有形文化財になっています。

飯縄寺は正式名「明王山無動院飯縄寺 (みょうおうざんむどういんいづなでら)」といい、大同三年 (808 年)、慈覚大師により開山されました。ご本尊は飯縄大権現 (いづなだいごんげん) ですが、天狗のお姿をしていることから、「天狗のお寺・おいづなさん」と古くからいらわれています。

飯縄権現は、信濃国 (現 長野県) の飯綱山に対する山岳信仰を起源とする神仏習合の神で、天狗形で白狐に乗った姿をしています。他の飯縄権現をまつる寺院でも、やはり火伏せを御利益としていることが多いようです。

なぜ天狗の姿をした飯縄権現が火伏せの御利益があると考えられるようになったのでしょうか？

一説には、天狗は羽団扇を使って風を操ることから、昔の人は天狗は火事を鎮めると考え、火事が起こらないように祈る風習ができたといわれています。

飯縄寺の御利益は、火防・家内安全・海上安全・商売繁盛・無病息災・厄除・盗賊除など 13 種類あります。



なお、火伏せのご祈禱は毎年 12 月 15 日の午前 10 時と 12 時に行われ、その後「飯縄山火防」と書かれたお札が配られます。また、12 時のご祈禱に先立って稚児行列があり、大勢の参拝客でにぎわいます。

② 安養寺 (いすみ市深谷 1693)

このお寺はいすみ市深谷にあって、ここも火伏せのお寺として親しまれています。

安養寺の正式名称は瑠璃光山浄土院安養寺 (るりこうざんじょうどいんあんようじ) といい、天台宗のお寺です。ご本尊は薬師如来で、近くには天台宗と関係が深い日吉神社もあります。

創建については、詳しい資料がなく不明で

すが、一説には室町時代ともいらわれています。安養寺は飯縄寺と同じく、火伏せの法を伝えられ

ましたが、幕末 (慶応 3 年頃) に起こった苅谷宿の大火以降、おおいに信仰されるようになったそうです。特に、いすみ市万木から大多喜町にかけての地域には講が作られ、火伏せのお札が各戸に配られました。

現在でも「飯縄尊 火防」とかかれた火伏せのお札が配られております。

火伏せのご祈禱は毎年 12 月 13 日にありますが、こちらも多くの方参拝客でにぎわっています。

寒い時期が続きますが、みなさま、火の用心でお過ごしください。

(取材協力：安養寺、飯縄寺、いすみ市郷土資料館)



《 行事報告 》

9月21日

シルバーウィーク特別行事第1弾 芋掘りしましょ！



今年は作付量が100株と少なく、大々的な行事として行える量ではなかったため、シルバーウィークのお楽しみ行事として開催いたしました。5家族18名の参加がありました。土が柔らかいので、手で十分に掘ることができ、小さいお子さんでも、大きなサツマイモを掘ることができました。皆さん大変楽しそうに掘っていました。掘ったイモは一度一ヶ所に集めて、その前で記念撮影。たくさんの芋の前で皆さん笑顔です。その後、家族ごとに分けて、お土産として持ち帰ってもらいました。

9月23日

シルバーウィーク特別行事第2弾 焼き芋しましょ！



大人5名、小人4名、計9名の参加がありました。

センターでの焼き芋は、稲のもみがらと、通称“燻炭焼機（くんとんやきき）”と呼ばれる、もみがらを“燻炭”にするための道具を使います。今回参加された方達は、初めて見る焼き芋の仕方だったので、驚いている方が多かったです。火の準備はセンターで行いましたが、イモの準備は参加者の皆さん自ら行いました。アルミホイルで包んだ芋を、もみがらの中に入れてから約1時間後に焼き上がりました。

9月26日

草木染め体験



大人23名の方に参加していただきました。今回は、セイタカアワダチソウの茎と葉、玉ねぎの皮を煮出した物を使って、木綿とシルクの布を染めることになりました。染めた後は色止めのために、ミョウバンを使った“アルミ媒染（ばいせん）”と木酢酸液に錆びた鉄を入れて作った木酢酸鉄を使用した“鉄媒染（てつばいせん）”を行いました。

イベントの感想として、「初めての経験で自分だけのオリジナルの作品が作れた」「手作りのものができ、大勢と過ごせた」といった声がありました。

11月1日**わらでおきもの細工をつくろう**

大人12名、小人1名の計13名の方の参加がありました。

午前中には、馬のわら細工を作り、午後からは亀のわら細工を作りました。完成後、皆さんで自分の作品を持って、記念撮影を行いました。様々な亀と馬ができていました。

文化行事はどの講座も少々難しく、今回も完成までの道のりは遠かったようです。でも、皆さん難しいながらも、参加者同士で助け合いながら、和気あいあいと楽しくできたという感想を頂けました。

11月28日**晩秋のセンターで自然観察をしよう**

参加者は大人3名でした。

クリ・コナラ・クヌギと似た葉の樹木の見分け方を学んだり、紅葉する葉を探して、ハゼノキ・アカメガシワの葉を観察したりしました。また、ことわざ「蓼食う虫も好き好き」の蓼(タデ)を皆でかじって、視覚だけでは無い自然観察を行いました。

じっくり興味の向くまま観察をしていたため、2時間かけて直線距離で400m程度しか進めませんでした。皆さん楽しんでいただけたようです。

12月5日**つるでリース作り**

参加者は、大人14名でした。

朝から本降りの雨でしたが、開催時刻には雨は止み、参加者の皆さんとつるを採取しに行きました。それぞれが思い描いた完成品を作るために採取した立派なツルは、長さも、太さも、ツルの種類も違います。材料も曲げ方も違うので、世界に一つの作品ができあがりました。

行事終了後の感想では、

「ツルを取るところから体験できたのが良かった」「身近な野山に有る物で作れるとは思わなかった」、といった声がありました。

★10月3日の万木城までの自然観察と里山ハイキングは、雨天により中止になりました。
☆行事報告の詳しい内容は、センター日記 (<http://isumisato.exblog.jp/>)にてご覧いただけます。

第13回さとの文化祭

第13回さとの文化祭を、11月17日～23日まで開催いたしました。文化祭に出展される多くの作品は、夷隅郡市の小学校からのものです。今年度は、23校から絵画、工作、自由研究と、総数437点の出展がありました。



絵画は、どれも力強く独創的な、優劣つけがたい作品が集まり、審査の際には審査員の方を大層悩ませたそうです。自由研究と工作部門も力作揃いで、手にとってじっくりと読んでいる方を多く見かけました。

一般部門では、5部門の出展がありました。

《一般出展部門》

- ・ 岬町俳画クラブ…俳画 8 点
- ・ いすみ楊枝…竹細工 10 点
- ・ 陶芸…16 点
- ・ 正月用寄せ植え
- ・ いすみ健康ぞうり

どの作品も大変素晴らしく、子供達の作品が多く占める中で、ぴりりと文化祭を引き締めただけでした。



文化祭来場者数は1,112名となり、大変盛況なイベントになりました。文化祭鑑賞にいらした方の感想は、

- ・ 普段見られない子や孫の作品が見られた
- ・ 子供達のエネルギー溢れる作品を毎年楽しみにしている
- ・ 文化祭で初めてこの施設を知った。子供達にとって良い施設だと思う

といった声がありました。

来年度も引き続き開催する予定なので、ぜひ文化祭鑑賞にいらして下さい。

◆竹かご教室 —10/10, 17, 24, 31, 11/7—

竹かご教室は、全5回（5週連続）2ヶ月に渡って開催される当施設の人気行事です。大人19名の参加がありました。

第1回目10月10日は、ひご作りの練習を重点的に行いました。竹は前日に、職員が夷隅川沿いの竹山から伐り出してきたマダケを使用しました。「ひご」とは、竹を割り剥いで作ったひものようなもので、それを編んでかごを作ります。全て竹割り用のなたで行います。この作業が初心者には大変難しいのですが、かご作りには最も重要な作業なのです。伐採した木や竹を割る際に、木は生えている状態で下からなたをあて、竹は生えている状態で上からなたをあてる「木モト竹ウラ」というキーワードも習いました。皆さんひご作

りの方法を、何度も講師の方に教わりましたが、なかなか難しいようでした。

第2回目17日は、まず参加者の皆さんで山に行き、本日使う竹を伐り出してきました。真直ぐ・節間が長い・太い・枝が少ないなどの竹が良いといった説明もありました。

伐り出した竹を持ち帰り、扱いやすい長さ



に切った後は、またひご作りの練習です。ひたすら割って、

割って、剥いで剥いで繰り返す。一方、リピーターの参加者ではもう編み始めている方もいました。今回は「六つ目かご」作りからスタートです。

第3回目の24日も、まず山に竹を伐り出した後の作業は、またひご作り。途中から雨が降り出したので、外から工作室に移って作業をおこないました。



3回目となれば、編み始める人数も増えてきました。ハバギメ器と

いう道具でひごの幅を一定にすることが美しいかごになるポイントということです。二種類目の「筏底（いかだぞこ）かご」を作り始める人も現れました。

第4回目の31日。この日も竹の伐り出し、材料の確保からです。ハバギメ器を自作して持参した方も現れました。次回には完成させないと・・・と、ひご作りを行う人、かごを編む人、皆さん真剣で黙々と作業しています。



ついに最終回の第5回目11月7日。最終回ともなれば、長いひご作りを行う人も登場です。筏底の

かごでは、ひごが長ければ長いほど、美しく大きなかご作れます。完成を目指して、皆さん一生懸命編んでいました。

そして、第1回目の時には、完成させられないのでは…と弱音をこぼしていた方も、自分のカゴを作り上げることができました。最後に完成したカゴを持って、皆さんで完成記念写真を撮影しました。

行事終了後の感想では、

- ・和気あいあいとしたイベントで楽しかった
- ・竹を伐り出す所から始められ、全ての流れが体験できた
- ・楽しく参加できた。

といったものがありました。また、過去にも参加された方の中には「去年できなかったことができるようになった」といった回答もあり、職員も嬉しい気持ちになりました。来年もまた参加したいという声も多く聞こえ、大成功だったかなと、胸を撫で下ろしました。

興味をもたれた方も、今年参加された方も、来年の参加をお待ちしております。



これからの行事案内

4月以降の予定は決まりしだいホームページに掲載します。

2月

●水辺の鳥たちを観察しよう

7日(日)8:30~11:30 定員 20名

水辺にはどんな鳥がいるでしょう？観察に行きましょう。対象:中学生以上

場所:夷隅川河口周辺(集合:当センター)

持物:寒くない服装

●つるかごをつくろう

20日(土)10:00~16:00 定員 20名

つるを使ってかご作りをします。山に入って自分でも取りに行きます。

対象:高校生以上 場所:当センター

持物:鎌、剪定ばさみ、軍手、長靴、山に入れる服装、弁当

3月

●炭焼きにチャレンジ

13日(土)、14日(日)全2回 定員 20名

原始的な伏せ焼き・ドラム缶焼に挑戦しましょう。

13日が9:30~夜10時頃まで。一晚掛かります。

14日が13:00~15:00

対象:中学生以上(中学生は保護者同伴)

場所:当センター

持物:軍手、うちわ、懐中電灯、空ペットボトル(500ml程度)、弁当(13日の昼と夜)

●早春のセンターで自然観察をしよう

28日(日)10:00~11:00 定員 20名

春の始まったセンター内で自然観察を行います。

対象:小学4年生以上 場所:当センター

センターの生き物たち



スイセンノヒガンバナ科

古く中国経由で日本に渡来し帰化しました。園芸植物としても有名で、自然的な環境に植え広められています。通常花弁は一重ですが、八重咲きになるものもあり、ヤエスイセン（八重水仙）と呼ばれます。冬でも葉を青々と保ち、花を咲かせます。

センターでは水路に沿って生え、少々重そうに花を咲かせています。一重のスイセンとはまた違った可憐さで、清々しい匂いと共に楽しませてくれます。



ニホンイノシシノイノシシ科

10月20日から突如センター周辺に出現。畑や水田、湿性生態園に足跡や、土を掘り起こした跡（ラッセル痕）を残しています。

好物の中には、タケノコ、ドングリ、サツマイモ、イネ、ミミズ、カエルが含まれ、全て季節ごとにセンターで栽培・生息しているものです。現在のところ農作物への被害は出ていませんが、今後どうなることでしょうか。

湿性生態園、センター雑木林、水田周辺を注意しながら歩くと、イノシシの足跡を見ることができるかもしれません。

いすみ楊枝 —千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

日時 毎月第3日曜日(9:30~16:00)

場所 ネイチャーセンター

講師 高木守人 氏

参加料 無料

内容 楊枝・花入れ・茶杓作り など

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年の漢字は「新」でした。今年は寅年、どんな1年になるのでしょうか。

さて、今のメンバーで「さとのかぜ」を作り始めて、今回が実質3回目です。やっと編集のペースがつかめ、原稿も締め切りに間に合うようになりました。そして、紙面もバラエティーに富むものになりつつあります。

とはいっても、この紙面の充実に満足はしていません。ご来園いただいた時に「また来たい」と思っただけのよう、努力していきます。皆様のご来園をお待ちしております。
所長

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。

*eメール可(メールアドレス:senta-sato@isumi-sato.com(すべて半角小文字です))

*行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間：9:00~16:30、入館料：無料

※当施設のご案内や解説などを希望される団体は、2週間前までにお申し込み下さい。